

ANNUAL Report

年報 2020



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university

CITE

■ あいさつ ■



愛媛大学総合情報メディアセンター長

高橋 寛

本センターは、平成 15 年 4 月に発足し、情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的に、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの業務を幅広く行っております。最近は、学内の情報セキュリティの強化に取り組んでおります。

計算機システムやキャンパス情報ネットワークは、学生、附属学校生徒及び教職員にとってなくてはならないものであり、それらの利便性を向上し、常時安定的に利用可能とすることは、本センターの最大の使命と思われます。一方、情報セキュリティの問題に対して万全の対策を施し、インシデント発生時には迅速な対処が可能な体制の構築が求められております。また、eラーニング等による効果的な教育システムの構築やサービス提供、情報リテラシ教育への寄与なども本センターが果たすべき役割の 1 つと思われます。

2020 年度は、新型コロナウイルスに対処するために急遽、遠隔講義・遠隔勤務体制を整備する必要に迫られ、ネットワーク回線の増強、Wi-Fi アクセスポイントの増設、LMS(Moodle)の補強、遠隔講義配信システムの整備、クラウドサービス利用の拡充等を行い、オンライン講義下においても学生の修学に支障が出ないよう努力して参りました。

2021 年度は、全新入生のノートパソコン必携化を開始し、パソコンに不慣れな学生のためのサポートルームを新たに設置するなど、ニューノーマル時代（本年度も with コロナ時代）の修学環境の整備に向けて、引き続き精力的に取り組んで参ります。

さらに、今年度、全学に設置される DX(Digital Transformation)推進室に協力し、最新の AI 技術や RPA テクノロジー等を活用した新たな業務運営体制の構築を推進して参ります。

総合情報メディアセンターでは今後とも皆様のお役に立てるよう、引き続き様々な取り組みを行って参りますので、御支援と御理解を賜りますようお願い申し上げます。

1. 部門概要・業績

(1) 部門教職員(2021年3月現在)

【センター長(兼)】

教授：樋上 喜信

【情報基盤・セキュリティ部門】

教授：川原 稔

准教授：阿萬 裕久

助教(兼)：佐々木 隆志

【ICT利用教育・情報サービス推進部門】

教授(兼)：田中 寿郎

教授：中川 祐治

教授：野口 一人

助教：裏 和宏

【その他】

教育支援者：菊川 佳代

【研究支援部情報システム課】

課長

和氣家 孝夫

副課長

西野 弘親

総務チーム

TL(兼)：西野 弘親

事務補佐員：菊川 昭治, 事務補佐員：柳田 法子

電子情報チーム

技術員：池住 元秀, 技術員：渡部 周平, 技術員：梅本 祥史

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣, 技術専門職員(重信)：中村 勝

技術専門職員(樽味)：増田 隆司, 技術員：近藤 智幸

1. 部門概要・業績

(2) 部門概要

【情報基盤・セキュリティ部門(Division of Information Infrastructure and Security)】

愛媛大学における情報システム、情報ネットワーク、情報セキュリティの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度な情報通信技術及び情報セキュリティ技術の導入・運用管理・教育、情報セキュリティ体制の確立・運用管理等、高信頼・高機能の情報ネットワーク及び情報システムを構築することをその目標としています。さらに、CISO 及び CISO 補佐と協力して、愛媛大学 CSIRT (シーサート) を積極的に運営します。

令和2年度の主な活動は以下のとおりです。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

情報基盤システム(令和元年9月1日稼働)は、情報ネットワーク、情報システム、情報教育用PCから構成されている。情報ネットワークに関しては、データセンターを核として愛媛大学の主要キャンパス(城北、重信、樽味、持田)を耐故障性が高められた冗長系80Gbps回線(40Gbps×2)で接続したコンピュータネットワーク及びパブリックスペース等に配置した無線ネットワークで構成しており、高信頼性・高機能性を実現したものである。有線の情報ネットワークは、ファイアウォール及びIPSの機能を備えたL3スイッチを中核にデータセンターに据え、主要キャンパスに配置した305ノードのL2スイッチに基本20Gbps(10Gbps×2)で接続するトポロジーを持つ構成である。無線のネットワークは、講義室や会議室などのパブリックスペースにアクセスポイント610局を配置して多人数授業への対応を行えるようになっている。情報セキュリティの機能を強化するために、情報ネットワークを利用するには認証を必要とする機能を有しており、本運用中に無線ネットワークだけでなく全情報ネットワーク接続に対して認証を必須とする予定である。

情報システムに関しては、通常業務が安定的に行える仮想化統合環境をデータセンターに構築して安定的な運用が行えるようになっている。これには、学内向けのOS及びWebのホスティングサービスを数百のレベルでサポートできる人的・機械的体制が含まれている。仮想化統合環境に蓄積されるデータは、東温市重信キャンパスに設置されたバックアップシステムに20Gbps(10Gbps×2)の回線で接続し同期して保全している。情報システムを全て仮想化統合環境下で運用できることにより、耐障害性の高度化、無停止運用、事業継続計画(BCP)が可能となっている。

情報教育用PCに関しては、愛媛大学全体の情報教育を行えるように、教育用PC合計938台が全学の演習室等に設置されている。教育用PCでは、医療データ等の表示を正確に読み取れる表示再現能力に重点を置いて導入している。

この情報基盤システムは、研究支援部情報システム課と共同して安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは情報基盤システム保守定例会「システム状況検討会」を開催し、情報ネットワーク及び情報システム(サーバ群、パソコン端末群)の障害対応や改善について指導的役割を果たした。本学教職員と業者との担当部分を明確にして、専門家がそれぞれの担当部分について運用管理・監視・障害対応が行える体制を構築して、安定した運用を行い続けている。運用管理の補助を行うために、研究支援部情報システム課を中心に申請システムが開発され、セキュアゲートウェイ申請及びホスティングサービス申請向けのオンライン申請システムが運用されている。

1. 部門概要・業績

2) 情報セキュリティ対策

最高情報セキュリティ責任者（CISO）のもとに愛媛大学コンピュータセキュリティインシデント対策チーム（CSIRT）を平成 28 年度に構築して体制整備を行い、愛媛大学の情報セキュリティに関する対策及び技術的支援を行っている。平成 30 年 5 月に開設した CSIRT のホームページで、セキュリティ関連の情報発信を行っている。令和 2 年 11 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日には、学外公開申請書が提出されている学内のサーバ 461 台に対して情報セキュリティ対策脆弱性検査を実施し、危険な脆弱性が発見された Web 検査 5 件、OS 検査 17 件についてサーバ管理者には検査結果を通知して、改善あるいは廃止等の対策勧告を行った。令和 2 年度中には、インシデント対応を 65 件行い、そのうち 3 件が不正アクセス等のインシデントであった。インシデント等の対応については情報セキュリティ委員会に報告した。

3) ホスティングサービスの運用管理

情報基盤システムが更新されたことにより、学内への多くのホスティングサービスに対応できる環境が整備され正式運用を開始した。令和 3 年 3 月現在で、OS ホスティング 60 件、Web ホスティング 105 件がサービスされている。制度的にも整備を行い、研究活動や教育活動、さらには、地域連携や社会連携にも活用できるプラットフォームとして利用が可能となっている。部局等へのメールサービスについても、ホスティングサービスの一形態として再定義し、運用体制を整備している。

4) クラウドシステムの運用管理

平成 26 年 4 月よりマイクロソフト社 Microsoft 365（旧 Office365）を用いて、愛媛大学アカウントを認証基盤とした全学クラウドメールを学生・教職員全員を対象として運用を開始した。Microsoft 365 に関しては、マイクロソフト社による仕様変更等によるトラブルに対しても、適宜対応を行い安定運用に努め続けている。

コロナ禍の対策として遠隔授業等を行うために、ビデオ会議システム Microsoft Teams 及び動画配信システム Microsoft Stream をはじめ様々なアプリケーションの運用を始め、操作方法の講習や設定のサポート等を行うことによってオンラインでの講義等をスムーズに行えるよう努めた。

5) 遠隔拠点の整備

愛媛大学では、地域・社会連携等のため愛媛県内に多くの遠隔拠点を抱えている。遠隔拠点においては、主要キャンパスと変わらない情報ネットワーク環境を提供するため、総合情報メディアセンターでは VPN (Virtual Private Network) による遠隔拠点への情報ネットワークを構築して供給している。現在、遠隔拠点用情報ネットワークは 19 地点（うち 10 地点はサーバゾーンあり）で、遠隔拠点は新情報基盤システムの一部として機能しており、情報基盤システムとしての安定した運用管理体制となっている。

6) 総合情報メディアセンター第 1 部会（情報基盤・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第 1 部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報基盤及び情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報基盤・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項に

1. 部門概要・業績

ついて必要に応じて教員コア会議・運営委員会への審議送り及び学長や役員会との調整作業を行っている。

令和2年度の部会は、第1回：4月28日、第2回：5月19日、第3回：6月16日、第4回：7月14日、第5回：8月18日、第6回：9月15日、第7回：10月21日、第8回：11月18日、第9回：12月16日、第10回：1月20日、第11回：2月24日、第12回：3月24日に開催した。愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ対応の役割も果たした。

7) 愛媛大学情報セキュリティセミナーの開催

情報通信技術は導入しただけで終わりという訳ではなく、常に情報セキュリティに注意を払う必要があり、場合によっては、情報セキュリティの面から導入した情報システム等の更新を考える必要もあるため、令和2年9月18日(金)に教職員を対象にした「情報セキュリティセミナー」を開催した。なお、コロナ禍のため開催はオンラインで行われた。国立情報学研究所教授高倉弘喜氏から「大学における情報セキュリティインシデントの動向と対策」という演題で講演いただき、具体的な事例を交えて話があった。

【ICT利用教育・情報サービス推進部門(Division of Education using ICT and Information Service)】

ICT利活用教育の推進及び学内の情報サービスに対して技術的な充実のための助言・支援を行います。

令和2年度の主な活動は以下のとおりです。

1) ICT利用教育推進部会（第2部会）

ICT利用教育推進室会議（第2部会）を開催した。

第1回（5月22日）

1. 委嘱メンバーについて

委員の交代と新規委員が紹介された。

2. PC必携化及びソフトウェア包括契約について

学生のPC必携化を教育学生支援機構で議論し、ソフトウェア包括契約を情報戦略委員会で議論することとなった。

2) 情報リテラシー入門チーム会議

情報リテラシー入門チーム会議のリーダーとして以下の活動を行った。

4月6日に教員向け研修会を実施した。

コロナ禍により前期の講義開始が4月22日からとなり、これに合わせて8回の講義内容を圧縮し、さらに学生が非同期で学習できるように、各回ごとに「学習のてびき」を作り、教科書とMoodleコンテンツの両方を使った学習形態を確立した。

また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を受けるために、並行して実施されている「データリテラシー入門」で扱われていないAI教育に関する内容を「情報リテラシー入門」に盛り込むこととなり、8月末より（8/31、9/8、9/15、9/25、10/5、10/20）議論を重ね、2021年度の情報リテラシー入門の内容を変更した。

1. 部門概要・業績

3) まつやまデータ利活用研究協議会の充実

・新型コロナの影響により、総会開催が困難となった。そのため7月17日に書面会議の形式で総会を開催し、事業報告ならびに令和2年度の事業計画について審議し承認された。また、総会開催のための打合せを4月6日に行い、更に来年度の活動方針について10月8日にWeb会議を行った。

3つのワーキンググループについて、富士通WGは12月9日にWeb会議で実施し、令和2年度の進捗状況報告と12月から3月までの実施計画を議論した。日立WGは6月9日にWeb会議で実施され、総会に向けて資料のまとめを行った。NECWGは6月26日にWeb会議で実施され、総会に向けて資料のまとめを行い、12月15日に人流実験（令和2年3月22日から26日に実施）のデータ解析の進捗状況報告を行った。

・WGへの大学からの参加：

卒業研究生4名が3つのワーキンググループに参加し、主に松山市が保有する行政データを元に「松山市特定健診データから受診率の地域差分析」、「松山市振興資金融資制度の業種ごと融資率の可視化」、「松山市人材育成補助金の業種による補助額の分析」及び坂の雲の上ミュージアムで測定した結果に基づく「人流測定による施設滞在時間の推定」の4つの研究を行い、研究結果を各ワーキンググループへフィードバックした。

・WGに関連する地元IT企業の参画を推進：

これに関しては企業向けデータ利活用の普及と研修（リカレント教育）で述べる。

・ワーキンググループの活動：

富士通WGは12月9日、2月15日の計2回開催され、「松山市振興資金融資制度の業種ごと融資率の可視化」及び「松山市人材育成補助金の業種による補助額の分析」の研究を行った。

日立WGは6月9日、2月16日の計2回開催され、「松山市特定健診データから受診率の地域差分析」の研究を行った。

NECWGは6月26日、12月15日、2月16日の計3回開催され、坂の雲の上ミュージアムで測定した結果に基づく「人流測定による施設滞在時間の推定」の研究を行った。

4) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を引き続き学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より4名の学生（学部生）を選抜し、7月に愛媛県警察本部から委嘱された。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集に当たった。

5) 企業向けデータ利活用の普及と研修（リカレント教育）

企業データの解析でもっとも重要なのは、経営者の意識改革と、実際のデータに接する若手社員の育成である。本取組でのリカレント教育では若手社員の育成が主眼であるが、実データを解析するには上層部（経営者）の理解が不可欠であり、そのためには成功事例を見せることが重要である。そこで、データサイエンティスト協会等のセミナーに参加し、企業でのデータ利活用成功事例の情報収集を行い、この情報をもとに講師を招いてセミナーを実施する。今回は企業で実際にデータ解析を行う予定の方を対象に3月10日から12日の3日間に(株)LIGHTz 情報技術部・AI応用技術研究所の足立悠氏を講師として招き「プログラミングなしで始めるデータ分析」（機械学習を使った予測分析を体験してみよう）を開催した。参加者は14名であった。

1. 部門概要・業績

6) 学内教員向けの遠隔授業講習会の実施

コロナ禍により対面授業が中止となり、急遽遠隔授業の必要性が生じたため、学内の教員向けに遠隔授業で利用する各種システムの使い方に関する講習会を3回実施した。講習会は、対面参加だけでなく配信による遠隔参加も可能な形で開催し、さらに、講習会の録画を公開して後日でも視聴可能なようにした。

- 2020年4月13日(月) 14:00～16:00 「Moodle講習会」
- 2020年6月4日(木) 13:30～15:30 「遠隔授業システムの使い分けと組合せ」
- 2021年3月8日(月) 14:00～15:00 「TeamsやWebExを活用した遠隔講義・遠隔勤務講習会」

(3) 教員活動実績



中川 祐治

NAKAGAWA Yuji

<職名>：教授

<生年月日>：1957年12月14日

<電話>：089-927-9569

<E-mail>：nakagawa.yuji.mk@ehime-u.ac.jp

<職歴>：

○(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研究部
研究員(1986年4月～1989年12月)

○鹿児島大学助教授(1990年1月～1990年3月)

○鹿児島大学情報処理センター主任/助教授(1990年
4月～1993年3月)

○国際基督教大学助教授(1993年4月～1995年3月)

○国際基督教大学準教授(1995年4～1996年6月)

○愛媛大学教授(1996年7月)

<学歴>：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修
了

<学位>：1986年理学博士(東京都立大学)

<免許・資格>：

○(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネイチ
ャーゲームリーダー」(1999年8月)

○NPO 法人自然体験活動推進協議会認定「自然体験活
動リーダー」(2003年4月)

<所属学会>：人工知能学会，情報処理学会，電子
情報通信学会，日本データベース学会，ACM，コンピ
ュータ利用教育学会，高エネルギー物理学研究者会議，
日本環境教育学会，日本環境教育フォーラム

<専門分野>：情報認識学，高エネルギー物理学，

環境教育

<研究課題>：画像認識・理解の研究，遠隔教育シ
ステムの研究，環境教育と情報認識学の融合

<部局内貢献>：

○ICT利用教育推進室室長(2018年4月～)

○第2部会(ICT利用教育推進部会)部会長(2018年
4月～)

○総合情報メディアセンター会議委員(2011年4月
～)

<学外審議会・委員会活動>：

○愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問(2007年
12月～)

○四国中央市教育委員会小中学校情報通信ネットワ
ーク構築業務評価委員(2020年4月～12月)

<調査・研究会等への貢献>：

○まつやまデータ利活用研究協議会運営委員長(2018
年11月～)

<講演実績>：

○四国オープンイノベーションワークショップ「まつ
やまデータ利活用研究協議会の発足と現状」(2021年2
月3日)

<地域啓発活動・教育機関支援活動>：

○Code for DOGO代表(2015年3月～)

○愛媛県シェアリングネイチャー協会副理事長(2017
年4月～)

<ボランティア活動>：

○愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェアリン
グネイチャーの会運営委員長(2007年1月～)



野口 一人

NOGUCHI Kazuto

<職名> : 教授

<電話> : 089-927-8802

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○日本電信電話株式会社フォトニクス研究所・他 勤務 (1986年4月～2011年6月)

○愛媛大学教授 (2011年7月)

<学歴> : 早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了

<学位> : 2001年博士 (工学) (早稲田大学)

<免許・資格> : 第一種衛生管理者, 有機溶剤作業主任者, 特定化学物質等作業主任者, レーザ機器取扱技術者 (第1種), 特定高圧ガス取扱主任者

<所属学会> : 電子情報通信学会, 応用物理学会, IEEE, 遠隔医療学会

<専門分野> : 光デバイス, 光波長多重通信, 光通信システム

<研究課題> : 光・情報ネットワークの高度化, 医療 ICT

<部局内貢献> :

○総合情報メディアセンター会議委員 (2011年7月～)

○情報資源・セキュリティ管理部会委員 (2011年7月～)

○安全衛生委員・安全衛生管理委任者 (2013年1月～)

○eラーニング推進部会委員 (2016年4月～)

<調査・研究会等への貢献> :

○大学プログラミングオープンチャレンジ (EPOCH@まつやま) 実行委員 (2011年)

○第73回応用物理学会学術講演会 現地実行委員 (2012年9月)

○電子情報通信学会 ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会 現地世話人 (2012年12月)

○電子情報通信学会 光通信システム研究会 現地世話人 (2013年1月)

○日本胎児心臓病学会 日本胎児遠隔医療研究会幹事 (2013年2月～)

○えひめ IT フェア 2013 (2013年6月)

○電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ研究会 現地世話人 (2013年12月)

○IEEE 四国支部 Vice Chair (2017年1月～2018年12月)

○セキュリティシンポジウム道後ライブ配信 (2018年3月)

○IEEE 四国支部 Chair (2019年1月～2020年12月)

○スマートインクルージョン活動推進協議会 運営委員会副委員長 (2020年8月～)

<講演実績> :

○「現代社会と情報教育」, 平成30年度愛媛大学教員免許更新講習, 愛媛県 (2018年9月8日)

○「インターネットの中身を覗いてみよう」, キャンパス IT 体験会 2019, 愛媛県 (2019年9月9日)

○「ICT の進化と今後の利活用」, デジタル支援員養成講習会, 松山市 (2020年10月12日)



川原 稔
KAWAHARA Minoru

<職名> : 教授
<電話> : 089-927-9097
<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : kawahara@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

- 京都大学助手 (1990年4月～2004年2月)
- 愛媛大学助教授 (2004年3月～2007年3月)
- 愛媛大学准教授 (2007年4月～2013年1月)
- 愛媛大学教授 (2013年2月)

<学歴> : 京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了

<学位> : 2003年博士 (情報学) (京都大学)

<所属学会> : 電子情報通信学会, 情報処理学会

<専門分野> : 情報通信システム, 知能情報学, 情報保障, 医療情報学, オペレーションズリサーチ

<研究課題> :

- オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分

散システムに関する研究

○情報ネットワークを基盤としたロケーションウェアに関する研究

○視覚情報保障の情報通信技術応用に関する研究

○情報通信技術による視覚特性の計測に関する研究

○数理モデルを用いた地域連携・産学連携問題解決法に関する研究

<部局内貢献> :

○総合情報メディアセンター会議委員 (2011年4月～)

○第1部会 (情報基盤・セキュリティ管理部会) 部長 (2018年度～)

○システム状況検討会 (情報基盤システム保守定例会) 議長 (2011年4月～)

○愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー (2012年9月～)

○情報セキュリティ専門委員会委員長 (2012年9月～)

○情報セキュリティ委員会委員 (2012年9月～)

○CSIRT (情報セキュリティ対策チーム) (2016年度～)

○BCP 検討WG (2021年3月～)



阿萬裕久
AMAN Hirohisa

<生年月日> :
1973年8月8日

<職名> : 准教授

<電話> : 089-927-8981

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : aman@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

- 愛媛大学工学部助手 (2001年4月～2005年3月)
- 愛媛大学工学部特任講師 (2005年4月～2006年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科特任講師 (2006年4月～2007年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科講師 (2007年4月～2013年9月)

○愛媛大学総合情報メディアセンター准教授 (2013年10月～)

<学歴> : 九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了

<学位> : 2001年 博士 (工学) (九州工業大学)

<免許・資格> : 第一種衛生管理者

<所属学会> : 情報処理学会, 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, 日本知能情報ファジィ学会, 米国電気電子学会 (IEEE)

<専門分野> : ソフトウェア工学

<研究課題> :

○ソフトウェア品質に関する定量的尺度の研究

○ソフトウェアの効率的な品質向上に向けた数理モデルの活用に関する研究

○ソフトウェア開発活動に対する品質マネジメントの実践に関する研究

1. 部門概要・業績

<部局内貢献> :

- 総合情報メディアセンター会議委員 (2013年10月～)
- 第1部会(情報基盤・セキュリティ管理部会)委員 (2018年度～)
- 情報セキュリティ専門委員会委員 (2014年4月～)
- 修学支援システム検討専門委員 (2020年8月～2021年2月)
- CSIRT(情報セキュリティ対策チーム) (2016年度～)

<学外審議会・委員会貢献> :

- 日本ソフトウェア科学会学会誌編集委員 (2013年4月～)
- 電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会 専門委員 (2003年5月～)
- 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会 専門委員 (2020年5月～)
- 情報処理学会ソフトウェア工学研究会 運営委員 (2019年4月～)
- 情報処理学会論文誌ソフトウェア工学特集号編集委員 (2015年2月～)
- 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウムプログラム委員 (2006年度～)

- 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE プログラム委員 (2009年度～)
- The 4th International Conference on Big Data, Cloud Computing, and Data Science (BCD2019) プログラム委員
- The 14th Workshop on Testing: Academia-Industry Collaboration, Practice and Research Techniques (TAIC PART 2019) プログラム委員
- The 19th IEEE/ACIS International Conference on Software Engineering Research, Management and Applications (SERA2021) プログラム委員
- 独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員(情報関係基礎問題作成部会) (2014年4月～2016年3月)
- 愛媛医療センター附属看護学校非常勤講師 (2019年4月～)
- 四国医療技術専門学校 非常勤講師(2006年10月～)
- 国立情報学研究所 トップエスイー 講師 (2008年4月～2016年3月)



佐々木 隆志
SASAKI Takashi

<生年月日> :

1974年3月16日

<職名> : 助教(兼)

<電話> : 089-927-8354

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

<職歴> :

- 京都科学技術専門学校(京都府京都市) 非常勤講師 (2001年4月～2003年3月)
- 京都コンピュータ学院(京都府京都市) 非常勤講師 (2004年4月～2005年3月)
- 国立国会図書館関西館(京都府精華町) 非常勤調査員 (2004年6月～2007年2月)

- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2004年10月～2005年3月)
- 奈良産業大学(奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師 (2005年4月～2007年2月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2005年12月～2006年3月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2006年12月～2007年2月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター助手 (2007年2月)

○愛媛大学経営情報分析室助教 (2013年10月)

<学歴> :

- 京都大学理学部卒業(物理学専攻) (1998年3月)
- 奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士前期課程修了 (2000年3月)
- 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程単位取得

1. 部門概要・業績

退学（2004年3月）

<学位>：2000年修士（工学）（奈良先端科学技術大学院大学）

<所属学会>：情報処理学会, IEEE, Information Processing Society of Japan, アメリカ計算機学会

<専門分野>：情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning

<研究課題>：

- e-Learning システムのデザインと効果分析
- 自律分散ネットワーク
- 大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ
- 自律分散音響測位システム

<部局内貢献>

- EPOCH@まつやま実行委員（2007年度～）
- 第1部会（情報基盤・セキュリティ管理部会）委員（2018年度～）
- e-Learning推進検討ワーキンググループ（2009年

度～）

○CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)（2016年度～）

<学外審議会・委員会活動>：

- e-Knowledge コンソーシアム四国企画委員
- システム専門委員（2008年～）
- e-まつやま最先端技術研究会理事（2010年度～）
- 情報処理学会四国支部評議員（2010年度～）
- Treasurer of IEEE Shikoku Section（2011年～）
- 国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員
- 日本Androidの会四国支部
- 愛媛情報セキュリティ研究会（通称セキュリティみかん）
- オープンセミナー愛媛実行委員
- オープンソースカンファレンス愛媛実行委員
- 情報セキュリティシンポジウム道後実行委員
- Code for DOGO 委員（2015年3月～）



裏 和宏

URA Kazuhiro

<生年月日>：

1988年8月16日

<職名>：助教

<電話>：089-927-8801

<FAX>：089-927-8805

<E-mail>：ura.kazuhiro.xe@ehime-u.ac.jp

<職歴>：

- 香川大学総合情報センター技術補佐員（2013年4月～2018年3月）
- 愛媛大学総合情報メディアセンター助教（2018年5月）

<学歴>：

- 香川大学工学部信頼性情報システム工学科卒業（2011年3月）
- 香川大学大学院工学研究科信頼性情報システム工学専攻博士前期課程修了（2013年3月）

<学位>：2013年 修士（工学）（香川大学）

<専門分野>：e-Learning, 教育工学

<研究課題>：

- 学生の思考過程や理解度の分析
- 教育の最適化
- e-Learning の組織的運用

<部局内貢献>：

- ICT利用教育推進部会（第2部会）委員（2018年5月～）
- 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 愛媛大学分室 分室教員（2018年5月～）
- ICT利用教育推進室 室員（2018年5月～）
- 共通教育センター企画専門部会 陪席員（2018年5月～）
- 情報リテラシー入門チーム チームメンバー（2018年6月～）

<学外審議会・委員会活動>：

- 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 企画委員（2018年5月～）

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

【著 書】

中川 祐治

○「情報リテラシー入門 2021 年版」, 中川祐治ほか, 全体取りまとめ及び分担執筆 第 5 章 情報とデータ, 日経 BP 社, 2021 年 3 月.

野口 一人

○情報リテラシー入門 2021 年版」, 野口一人, 分担執筆 第 9 章 情報利活用: プレゼンテーション, 2021 年 3 月.

阿萬 裕久

○「C, lp_solve による数理計画法」, 分担執筆 付録 lp_solve, 2021 年 3 月.

裏 和宏

○「情報リテラシー入門 2021 年版」, 裏和宏, 分担執筆 第 1 章 パソコンの基本操作, 2021 年 3 月.

【論 文 (過去 5 年間)】

中川 祐治

紀要・抄録

○CNN を用いた変体仮名認識手法, 新納裕貴・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 13-1, 2019.

○セマンティックセグメンテーションによる黒目領域推定, 徳永眞哉・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 13-28, 2019.

○男女別 IPMR を用いた合計特殊出生率低下の要因推測, 伊藤 佑一・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 17-20, 2019.

○合計特殊出生率低下を探索する尺度の算出手法の開発, 伊藤佑一・中川祐治, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 17-1, 2018.

○機械学習による受講者観察システム高速化の検討, 徳永眞哉・中川祐治, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 13-20, 2018.

○機械学習を用いた島ナビの一検討, 新納裕貴・中川祐治, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, 13-21, 2018.

野口 一人

○学術ネットワークを使った胎児心エコー遠隔セミナーの取り組み, 野口一人, 愛媛ジャーナル, 第 31 巻, 第 10 号, pp. 77-79, 2018.

川原 稔

原著論文

○バグ混入予測の精度向上に向けた個人化予測モデルの組合せ手法とその評価, 宮本敦哉・阿萬裕久・川原稔,

2. 教育研究実績

コンピュータソフトウェア, Vol. 37, No. 4, pp. 38-49, 2020.

○Empirical Study of Abnormality in Local Variables and Its Application to Fault - Prone Java Method Analysis, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Journal of Software: Evolution and Process, Vol. 32, No. 4, pp. e2220, 2020.

○Doc2Vec を活用した変数名の自動評価法の提案, 山中啓太・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXVII, pp. 51-56, 近代科学社, 2020.

○A Survival Analysis-Based Prioritization of Code Checker Warning: A Case Study Using PMD, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Big Data, Cloud Computing, and Data Science Engineering. Studies in Computational Intelligence, vol. 844, pp. 69-83, 2020.

○他の開発者向けに構築された個人化バグ予測モデルの活用に関する提案, 宮本敦哉・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXVI, pp. 3-12, 近代科学社, 2019.

○データ依存関係に着目したフォールト混入リスク評価マトリクスの提案, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 36, No. 4, pp. 32-38, 2019.

○フォールト混入のリスク評価に向けたソースコード変更マトリクスの提案, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXV, pp. 47-52, 近代科学社, 2018.

○決定木を利用した Java メソッドの名前と実装の間の適合性判定モデルとその評価, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 35, No. 4, pp. 115-121, 2018.

○A Quantitative Analysis on Relationship between an Early-Closed Bug and Its Amount of Clues: A Case Study of Apache Ant, Akito Sunouchi・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E101-D, no. 10, pp. 2523-2525, 2018.

○An Entropy-Based Metric of Developer Contribution in Open Source Development and Its Application to Fault-Prone Program Analysis, Kazuki Yamauchi・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol. 6, no. 3, pp. 118-132, 2018.

○An Evaluation of Coding Violation Focusing on Change History and Authorship of Source File, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol. 5, no. 4, pp. 211-220, 2017.

○Change-Prone Java Method Prediction by Focusing on Individual Differences in Comment Density, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E100-D, no. 5, pp. 1128-1131, 2017.

○決定木を用いた Java メソッドの名前と実装の適合性評価法の提案, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIV, pp. 63-72, 近代科学社, 2017.

国際学会発表論文

○A Mahalanobis Distance-Based Integration of Suspicious Scores For Bug Localization, Masanao Asato・Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 27th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2020), pp. 475-479, 2020.

○A Comparative Study of Vectorization-Based Static Test Case Prioritization Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 2020 46th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2020), pp. 80-88, 2020.

○Empirical Study of Fault Introduction Focusing on the Similarity among Local Variable Names, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 7th International Workshop on Quantitative

2. 教育研究実績

Approaches to Software Quality, pp.3-11, 2019.

○ Scalable Laplacian Regularized Least Squares Classification on Anchor Graph, Shozo Saeki · Minoru Kawahara · Hirohisa Aman, Proc. 2019 IEEE/ACIS 4th International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering, pp.71-76, 2019.

○ A Doc2Vec-Based Assessment of Comments and Its Application to Change-Prone Method Analysis, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 25th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2018), pp.643-647, 2018.

○ Fault-Prone Java Method Analysis Focusing on Pair of Local Variables with Confusing Names, Keiichiro Tashima · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 44th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2018), pp.154-158, 2018.

○ Empirical Analysis of Coding Standard Violation Focusing on Its Coverage and Importance, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE 42nd Annual Computer Software and Applications Conference (COMPSAC2018), pp.837-838, 2018.

○ Fault-Prone Source File Analysis Focusing on the Contribution Entropy in Open Source Development, Kazuki Yamauchi · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE/ACIS 3rd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD2018), pp.7-14, 2018.

○ A Topic Model and Test History-Based Test Case Recommendation Method for Regression Testing, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.302-397, 2018.

○ A Survival Analysis of Source Files Modified by New Developers, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, M. Felderer, D. M. Fernández, B. Turhan, M. Kalinowski, F. Sarro, D. Winkler (Eds.) Product-Focused Software Process Improvement, Lecture Notes in Computer Science, vol. 10611, pp.80-88, Springer, 2017.

○ Empirical Study of Abnormalities in Local Variables of Change-Prone Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 IEEE 28th International Symposium on Software Reliability Engineering Workshops, pp.214-221, 2017.

○ Empirical Analysis of Words in Comments Written for Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.375-379, 2017.

○ An Application of the PageRank Algorithm to Commit Evaluation on Git Repository, Sho Suzuki · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.380-383, 2017.

○ Empirical Study of Fault-Prone Method's Name and Implementation: Analysis on Three Prefixes---Get, Set and Be, Sho Suzuki · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.266-271, 2017.

○ Investigation of Coding Violations Focusing on Authorships of Source Files, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.254-259, 2017.

○ A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution,

2. 教育研究実績

Hirohisa Aman · Aji Ery Burhandenny · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29-35, 2017.

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman · Aji Ery Burhandenny · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29-35, 2017.

○Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121-128, 2016.

○Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4-11, 2016.

○Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman · Yuta Tanaka · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240-244, 2016.

○Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny · Takashi Nakano · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219-230, 2016.

紀要・抄録・報告

○変数に着目した変更メトリクスの有効性について ～フォールト混入予測精度の比較実験～, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.246, SS2019-22, pp.53-58, 2019.

○バグ票の類似度に基づいたバグ位置推定手法の改善に向けた提案 ～TraceScore 値の分配に関する比較実験～, 安里昌真・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.112, SS2019-4, pp.99-104, 2019.

○トピックの変化量に着目したソースコードの変更量分析に関する考察, 矢野博暉・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2018-SE-198, no.30, pp.1-8, 2018.

○Java ソースファイルの開発者数とバグ修正の起こりやすさに関する調査 ～ソースファイル間の依存関係に着目した解析～, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.117, no.136, pp.67-72, 2017.

○バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.116, no.512, pp.25-30, 2017.

○バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.116, no.512, pp.25-30, 2017.

○メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp.247-248, 近代科学社, 2016.

○一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウエ

2. 教育研究実績

ア工学の基礎 XXIII, pp. 251-252, 近代科学社, 2016.

○ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2016-SE-194, no. 6, pp. 1-8, 2016.

○コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエントロピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 131-136, 2016.

○メソッド名の長さ構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 137-142, 2016.

○オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp. 41-42, 2016.

○プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, no. 421, pp. 1-6, 2016.

阿萬 裕久

原著論文

○バグ混入予測の精度向上に向けた個人化予測モデルの組合せ手法とその評価, 宮本敦哉・阿萬裕久・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 37, No. 4, pp. 38-49, 2020.

○Empirical Study of Abnormality in Local Variables and Its Application to Fault-Prone Java Method Analysis, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Journal of Software: Evolution and Process, Vol. 32, No. 4, pp. e2220, 2020.

○Doc2Vec を活用した変数名の自動評価法の提案, 山中啓太・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXVII, pp. 51-56, 近代科学社, 2020.

○A Survival Analysis-Based Prioritization of Code Checker Warning: A Case Study Using PMD, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Big Data, Cloud Computing, and Data Science Engineering. Studies in Computational Intelligence, vol. 844, pp. 69-83, 2020.

○他の開発者向けに構築された個人化バグ予測モデルの活用に関する提案, 宮本敦哉・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXVI, pp. 3-12, 近代科学社, 2019.

○データ依存関係に着目したフォールト混入リスク評価メトリクスの提案, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 36, No. 4, pp. 32-38, 2019.

○フォールト混入のリスク評価に向けたソースコード変更メトリクスの提案, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXV, pp. 47-52, 近代科学社, 2018.

○決定木を利用した Java メソッドの名前と実装の間の適合性判定モデルとその評価, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 35, No. 4, pp. 115-121, 2018.

○A Quantitative Analysis on Relationship between an Early-Closed Bug and Its Amount of Clues: A Case Study of Apache Ant, Akito Sunouchi・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E101-D, no. 10, pp. 2523-2525, 2018.

○An Entropy-Based Metric of Developer Contribution in Open Source Development and Its Application to Fault-Prone Program Analysis, Kazuki Yamauchi・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol. 6, no. 3, pp. 118-132, 2018.

○Stochastic modeling of self-evolving botnets with vulnerability discovery, Takanori Kudo・Tomotaka Kimura・Yoshiaki Inoue・Hirohisa Aman・Kouji Hirata, Computer Communications, vol. 124, pp. 101-110, 2018.

2. 教育研究実績

○An Evaluation of Coding Violation Focusing on Change History and Authorship of Source File, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol. 5, no. 4, pp. 211-220, 2017.

○Change-Prone Java Method Prediction by Focusing on Individual Differences in Comment Density, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E100-D, no. 5, pp. 1128-1131, 2017.

○決定木を用いた Java メソッドの名前と実装の適合性評価法の提案, 鈴木翔 · 阿萬裕久 · 川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIV, pp. 63-72, 近代科学社, 2017.

○設備故障が旅客に与える経済的損失を評価尺度とした鉄道信号設備のライフサイクルコストの低減に関する考察, 志田洋 · 大串裕郁 · 樋上喜信 · 阿萬裕久 · 高橋寛, 電子情報通信学会論文誌 D, vol. J99-D, no. 5, pp. 539-548, 2016.

国際学会発表論文

○A Mahalanobis Distance-Based Integration of Suspicious Scores For Bug Localization, Masanao Asato · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 27th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2020), pp. 475-479, 2020.

○An Exploratory Study on Applicability of Cross Project Defect Prediction Approaches to Cross-Company Effort Estimation, Sousuke Amasaki · Hirohisa Aman · Tomoyuki Yokogawa, Proc. 16th ACM International Conference on Predictive Models and Data Analytics in Software Engineering (PROMISE2020), pp. 71-80, 2020.

○A Node-Style Visual Programming Environment for the nuXmv Model Checker, Hayato Naito · Tomouki Yokogawa · Nao Igawa · Sousuke Amasaki · Hirohisa Aman · Kazutami Arimoto, Proc. 2020 IEEE 9th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE2020), pp. 58-62, 2020.

○A Comparative Study of Vectorization-Based Static Test Case Prioritization Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2020 46th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2020), pp. 80-88, 2020.

○On the Effects of File-Level Information on Method-Level Bug Localization, Sousuke Amasaki · Hirohisa Aman · Tomoyuki Yokogawa, Proc. 2020 46th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2020), pp. 314-321, 2020.

○Empirical Study of Fault Introduction Focusing on the Similarity among Local Variable Names, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 7th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality, pp. 3-11, 2019.

○Applying Cross Project Defect Prediction Approaches to Cross-Company Effort Estimation, Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Hirohisa Aman, Proc. 15th International Conference on Predictive Models and Data Analytics in Software Engineering, pp. 76-79, 2019.

○A Comparative Study of Vectorization Methods on BugLocator, Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Hirohisa Aman, Proc. 2019 45th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications, pp. 236-243, 2019.

○Consistency Verification of UML Sequence Diagrams Modeling Wireless Sensor Networks, Akira Matsumoto · Tomoyuki Yokogawa · Sousuke Amasaki · Kazutami Arimoto · Hirohisa Aman, Proc. 8th International Congress on Advanced Applied Informatics, pp. 458-461, 2019.

○Scalable Laplacian Regularized Least Squares Classification on Anchor Graph, Shozo Saeki · Minoru

2. 教育研究実績

Kawahara · Hirohisa Aman, Proc. 2019 IEEE/ACIS 4th International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering, pp.71-76, 2019.

○Towards Better Effort Estimation with Cross-Project Defect Prediction Approaches, Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Hirohisa Aman, Proc. Evaluation and Assessment on Software Engineering Conference, pp.357-360, 2019.

○A Doc2Vec-Based Assessment of Comments and Its Application to Change-Prone Method Analysis, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 25th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2018), pp.643-647, 2018.

○Fault-Prone Java Method Analysis Focusing on Pair of Local Variables with Confusing Names, Keiichiro Tashima · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 44th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2018), pp.154-158, 2018.

○Empirical Analysis of Coding Standard Violation Focusing on Its Coverage and Importance, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE 42nd Annual Computer Software and Applications Conference (COMPSAC2018), pp.837-838, 2018.

○Fault-Prone Source File Analysis Focusing on the Contribution Entropy in Open Source Development, Kazuki Yamauchi · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE/ACIS 3rd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD2018), pp.7-14, 2018.

○A Topic Model and Test History-Based Test Case Recommendation Method for Regression Testing, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 2018 IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.302-397, 2018.

○A Survival Analysis of Source Files Modified by New Developers, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, M. Felderer, D. M. Fernández, B. Turhan, M. Kalinowski, F. Sarro, D. Winkler (Eds.) Product-Focused Software Process Improvement, Lecture Notes in Computer Science, vol. 10611, pp.80-88, Springer, 2017.

○Empirical Study of Abnormalities in Local Variables of Change-Prone Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 IEEE 28th International Symposium on Software Reliability Engineering Workshops, pp.214-221, 2017.

○Empirical Analysis of Words in Comments Written for Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.375-379, 2017.

○An Application of the PageRank Algorithm to Commit Evaluation on Git Repository, Sho Suzuki · Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.380-383, 2017.

○Empirical Study of Fault-Prone Method's Name and Implementation: Analysis on Three Prefixes---Get, Set and Be, Sho Suzuki · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.266-271, 2017.

○An Empirical Study on Relationships between Comments and Design Properties, Yuto Miyake · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Hirohisa Aman, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.260-265, 2017.

2. 教育研究実績

○Investigation of Coding Violations Focusing on Authorships of Source Files, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.254-259, 2017.

○A Replicated Study on Relationship Between Code Quality and Method Comments, Yuto Miyake・Sousuke Amasaki・Hirohisa Aman・Tomoyuki Yokogawa, Applied Computing and Information Technology, Studies in Computational Intelligence 695, pp.17-30, Springer, 2017.

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman・Aji Ery Burhandenny・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29-35, 2017.

○Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121-128, 2016.

○Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4-11, 2016.

○Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman・Yuta Tanaka・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240-244, 2016.

○Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny・Takashi Nakano・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219-230, 2016.

○Behavior Analysis of Self-Evolving Botnets, Takanori Kudo・Tomotaka Kimura・Yoshiaki Inoue・Hirohisa Aman・Kouji Hirata, Proc. 2016 International Conference on Computer, Information and Telecommunication Systems (CITS2016), pp.1-5, 2016.

紀要・抄録・報告

○変数に着目した変更メトリクスの有効性について ～フォールト混入予測精度の比較実験～, 川上卓也・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.246, SS2019-22, pp.53-58, 2019.

○バグ票の類似度に基づいたバグ位置推定手法の改善に向けた提案 ～TraceScore 値の分配に関する比較実験～, 安里昌真・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.112, SS2019-4, pp.99-104, 2019.

○階層的な制御構造をもつシーケンス図間の整合性検証手法の開発, 松本明・横川智教・天寄聡介・阿萬裕久・有本和民, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.112, SS2019-2, pp.47-52, 2019.

○ビジュアルプログラミングを用いた NuSMV のモデル生成支援環境, 内藤駿人・横川智教・天寄聡介・阿萬裕久・有本和民, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.112, SS2019-1, pp.41-46, 2019.

○トピックの変化量に着目したソースコードの変更量分析に関する考察, 矢野博暉・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2018-SE-198, no.30, pp.1-8, 2018.

○Java ソースファイルの開発者数とバグ修正の起こりやすさに関する調査 ～ソースファイル間の依存関係に着

2. 教育研究実績

- 目した解析～, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 117, no. 136, pp. 67-72, 2017.
- バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 116, no. 512, pp. 25-30, 2017.
- メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 247-248, 近代科学社, 2016.
- 一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 251-252, 近代科学社, 2016.
- ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2016-SE-194, no. 6, pp. 1-8, 2016.
- コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエントロピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 131-136, 2016.
- メソッド名の長さや構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 137-142, 2016.
- オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp. 41-42, 2016.
- プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, no. 421, pp. 1-6, 2016.

裏 和宏

紀要・抄録・報告

- 多様な心的特性情報を利用する教育支援システムの開発, 林敏浩・八重樫理人・藤本憲市・後藤田中・裏和宏・米谷雄介・藤澤修平, 日本科学教育学会年会論文集, No44, pp. 621-622, 2020.
- 簡易動画作成システム Galop における 注釈付き操作履歴の表示による学習過程の把握, 藤丘泰弘・裏和宏・垂水浩幸・林敏浩・中山迅, 科教研報, 28(6), pp. 19-22, 2018.
- 学習到達度測定法の違いによる講義コンテンツ視聴傾向分析—実証実験の実施方法—, 矢部智暉・岡田直也・國枝孝之・後藤田中・裏和宏・藤本憲市・林敏浩・八重樫理人, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集 (CD-ROM), 2017, 17-14, 2017.
- 大学連携 e ラーニングにおける認証連携方式の変更に伴う移行方法について, 後藤田中・裏和宏・藤本憲市・林敏浩, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集 (CD-ROM), 2017, F6-1, 2017.
- 大学連携 e ラーニングの共同実施におけるシステムトラブル対応について, 裏和宏・藤本憲市・後藤田中・林敏浩, 教育システム情報学会全国大会講演論文集 (CD-ROM), 42nd, F6-4, 2017.
- 大学連携 e-Learning におけるサーバおよびネットワーク負荷にかかる実践報告, 村井礼・裏和宏・末廣紀史・山下俊昭・藤本憲市・後藤田中・八重樫理人・最所圭三・今井慈郎・林敏浩, 教育システム情報学会第 41 回全国大会論文集, 41st, pp. 300-301, 2016.

2. 教育研究実績

(2) 学会発表等

中川 祐治

- 男女別 IPMR を用いた合計特殊出生率低下の要因推測, 伊藤佑一・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会(新居浜高専), 2019年9月21日.
- セマンティックセグメンテーションによる黒目領域推定, 徳永眞哉・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会(新居浜高専), 2019年9月21日.
- CNN を用いた変体仮名認識手法, 新納裕貴・中川祐治, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会(新居浜高専), 2019年9月21日.

野口 一人

- 紫外線硬化樹脂を用いて形成したピラーの導波特性, 稲山 貴之, 大橋和也, 野口一人, 藤川知栄美, 三上修,, 令和2年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会
- マイクロレンズを用いた光結合系の解析, 大橋和也, 稲山貴之, 野口一人, 藤川知栄美・三上修, 令和2年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会
- Polymer Optical Coupling Device with Single Mode Fiber for Silicon Photonics, Ryo Sato, Shuhei Suzuki, Chiemi, Fujikawa, Osamu Mikami, Takayuki Inayama, Kazuya Ohashi, Kazuto Noguchi, 9th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2019).
- Polymer Microlens on Single Mode Fiber for Silicon Photonics, Ryo Sato, Shuhei Suzuki, Chiemi, Fujikawa, Osamu Mikami, Takayuki Inayama, Kazuya Ohashi, Kazuto Noguchi, Advances in Applied Plasma Science, Vol. 12, 2019, pp. 37-38.
- 電気光学ポリマと高誘電率基板を用いた光変調機の低電圧化に関する検討, 藤原涼太, 野口一人, 令和元年度電気関係学会四国支部連合大会
- 電気光学ポリマと高誘電率基板を用いた光変調機の提案, 藤原涼太, 岡崎誠, 野口一人, 平成30年度電気関係学会四国支部連合大会

裏 和宏

- コロナ禍における愛媛大学 Moodle の運用事例, 裏和宏, Moodle Moot Japan 2021, 2021年2月19日

3. 教育活動及び教育支援

(1) 教育活動

【講義】

中川 祐治

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2020年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 106名, 共通基礎教育科目, 理学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2020年度前期, 環境ESD指導者養成講座 II, 15名, 共通発展科目, 全学部

2020年度 Q2, 応用数学概論, 8名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

2020年度 Q4, 情報数理学 II, 31名, 専門教育科目, 理学部

2020年度後期, 数学セミナー II, 7名, 専門教育科目, 理学部

2020年度後期, 環境ESD指導者養成講座 I, 20名, 共通発展科目, 全学部

野口 一人

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2020年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 103名, 農学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2020年度後期, 情報ネットワーク, 工学部1年90名, 工学部2年以上10名, 教育学部1名

2020年度 Q2, ネットワークシステム特論 I, 4名, ICTスペシャリスト育成コース

2020年度 Q3, ネットワークシステム特論 II, 4名, ICTスペシャリスト育成コース

2020年度 Q1, スポーツ健康マネジメント概論 I, 22名, 社会共創学部

2020年度前期, スポーツ健康情報処理演習, 21名, 社会共創学部

2020年度前期, スポーツ健康 ICT 活用演習, 18名, 社会共創学部

2020年度後期, フィールド基礎実習, 31名, 社会共創学部

2020年度後期, プロジェクト基礎演習, 3名, 社会共創学部

2020年度前期, プロジェクト応用演習, 3名, 社会共創学部

2020年度後期, プロジェクト実践演習, 3名, 社会共創学部

2020年度後期, スポーツ健康情報マネジメント演習 I, 4名, 社会共創学部

2020年度前期, スポーツ健康情報マネジメント演習 II, 3名, 社会共創学部

2020年度通期, 卒業研究, 3名, 社会共創学部

2020年度前期, 情報工学特別演習 I, 7名, 情報工学コース

2020年度後期, 情報工学特別演習 II, 7名, 情報工学コース

川原 稔

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2020年度前期, データベース論, 95名, 専門教育科目, 工学部

2020年度 Q2, 情報安全学, 520名, 専門教育科目, 工学部

2020年度後期, 情報基盤システム特論, 7名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

3. 教育活動及び教育支援

阿萬 裕久

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2020 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 254 名, 共通基礎教育科目, 工学部

2020 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 88 名, 共通基礎教育科目, 工学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2020 年度前期, C プログラミング, 82 名, 専門教育科目, 工学部

2020 年度前期, C プログラミング演習, 82 名, 専門教育科目, 工学部

2020 年度前期, ソフトウェア工学, 91 名, 専門教育科目, 工学部

2020 年度 Q3, 工学リテラシー III, 516 名, 専門教育科目, 工学部

2020 年度後期, ソフトウェア工学 I, 82 名, 専門教育科目, 工学部

2020 年度後期, 情報基盤システム特論, 7 名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

佐々木 隆志

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2020 年度 Q2, 情報リテラシー入門 I, 60 名, 共通基礎教育科目, 法文学部

2020 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 30 名, 共通基礎教育科目, 法文学部

裏 和宏

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2020 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 90 名, 共通基礎教育科目, 工学部

2020 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 85 名, 共通基礎教育科目, 教育学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2020 年度 Q1~Q4, 知プラ e 科目, 計 59 科目, 共通教育科目, 知プラ e5 大学全学部

【論文指導】

中川 祐治

2020 年度 卒業論文指導 学生数 4 名

野口 一人

2020 年度 卒業論文指導 学生数 5 名

川原 稔

2020 年度 卒業論文指導 学生数 4 名

阿萬 裕久

2020 年度 修士論文指導 学生数 3 名

2020 年度 卒業論文指導 学生数 5 名

3. 教育活動及び教育支援

【論文審査】

野口 一人

2020年度 修士論文審査数（副主査） 2名

川原 稔

2020年度 修士論文審査数（副査） 3名

（2）教育支援

【サークル等活動指導】

中川祐治

○キリスト者学生会（KGK）顧問

4. 研究活動

(1) 研究成果

中川 祐治

○ディープラーニングによる受講者観察システムの高性能化

学習者が文章を読む際に発生する眼球運動の一種である Saccade(一秒間に3回, 一回あたり約30ミリ秒)に着目し, 各種実験を行ったところ, 学習に集中している時は Saccade が観測され, 集中度が低下すると Saccade が観測されないという事実を2003年に確認した。そこで, 学習時の眼球運動を画像解析により取得し, Saccadeの有無により学習への集中度を測定する『受講者観察システム』の実用化研究を行ってきた。これまでに開発したシステムでは, 大まかな目領域に対して全方向微分フィルタを用いて黒目中心座標の検出を行っていた。しかし, この手法は黒目の半径に合わせたフィルタを用いなければ十分な効果が得られないという欠点がある。通常の学習時では受講者とカメラの距離が変動することに伴い黒目の半径も変動することから, その大きさを合わせるためにフィルタサイズの推定をしなければならず, 計算量が大きくなる。そこで, 機械学習を用いることにより, 黒目の半径に依存しない黒目中心検出手法を検討した。このような環境変化に容易に対応できるように, U-Net を利用したセマンティックセグメンテーションによる黒目領域推定手法を構築した。本研究では, 従来のPCで動作している受講者観察システムを, 処理能力の劣る携帯端末で動作させることが必要であり, U-Net と呼ばれる大規模ニューラルネットワークで学習した結果を携帯端末に移植し実現する。U-Net の学習には学内の高性能コンピュータ(HPC)を用いて行い, 期待する性能を得ることができた。

○まつやまデータ利活用研究協議会のデータ利活用

まつやまデータ利活用研究協議会の3つのワーキンググループ活動の一環として, 主に松山市が保有する行政データを元に「松山市特定健診データから受診率の地域差分析」, 「松山市振興資金融資制度の業種ごと融資率の可視化」, 「松山市人材育成補助金の業種による補助額の分析」及び坂の雲の上ミュージアムで測定した結果に基づく「人流測定による施設滞在時間の推定」の4つの研究を行い, 研究結果を各ワーキンググループへフィードバックした。

野口 一人

○光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム(LiNbO₃)は, 優れた電気光学特性, 音響光学特性, 非線形光学特性を有している。光通信システムでは, 光源である半導体レーザーの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み, 今日の長距離・大容量情報通信ネットワークを支えるキーデバイスの一つである。現在もなお, 将来の大容量化・高性能化を目指した研究開発が進められている。

現在, 光変調器のさらなる高性能化を図るため, 小型化が有望な材料を用いたシリコンフォトニクス, 低駆動電圧化が有望な電気光学ポリマーなど, 他の材料系のデバイス設計に取り組んでいる。卒論指導を通じて有限要素法による解析プログラムの作成, 及びデバイスシミュレーション, 光結合系の研究を進めている。

4. 研究活動

昨年度から続けている東海大学との共同研究において、シリコンフォトニクスデバイスと光ファイバとの結合系の設計を行った。先球レンズの曲率半径やピラー長を最適化した。また、光導波路解析で開発した有限要素法による光導波路解析プログラムを拡張し、ピラー半径と伝搬モードについて解析を行った。これにより、シングルモード条件で、結合損失が最小になる設計値を求めることができた。これらの解析結果を2件の報告にまとめ、令和2年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会に投稿した。

○ ICTのスポーツ・健康マネジメント応用に関する研究

近年の情報通信技術(ICT)とセンサ技術の発達により、人間の様々な活動データを計測し、インターネット経由で収集して分析することが可能になった。今年度は、画像解析技術とセンサを組み合わせ、軟式野球における投手の投球内容と投球動作の推移、ゴルフスイングの解析、ラグビーにおけるスクルーパスの動作解析を行った。

投球の解析においては、ジャイロセンサを組み込んだ硬式野球用の投球動作解析ボールを用いた。球速、回転数、回転軸など、ボール内のセンサで検知したデータは、あらかじめペアリングしたスマートフォンを介してサーバに送られる。投球動作をマウンドの横から高速カメラで動画撮影し、パソコンに取り込んで、画像解析ソフト Kinovea を用いて解析した。肩や肘の角度・位置、膝の角度を計測できる。投球数の増加によって、投球フォームの変化や投球速度の変化は、選手の体格による個別性が高く、被験者3人すべての選手に共通した特徴は見られなかった。特に、選手の経験年数により、パフォーマンスの安定性に差が生じることがわかった。

ラグビーの解析においては、経験者と初心者のパスフォームを撮影・解析し、動作の比較を行った。初心者においては、頭のずれや腕の無駄な動きがあり、パスまでに時間を要することがわかった。また、経験者は、パスを受ける際に準備動作を行っていることもわかった。

川原 稔

○視線誘導型視野計測手法に関する研究

視野の把握は、緑内障や網膜変性症などの疾患を早期発見・早期対処するために重要な役割を果たす。現存する視野計測法では、視線を固視して計測を行う必要があり、被験者にとって負担が大きいものである。本研究では、視野計測を行うための視標を目で追って視線を自由に動かすことができる計測法を發明し、被験者が反応する時間計測に基づいて視野暗点を検出することができるようになった。本研究に基づいて計測システムを用いて計測データを取得している。本研究に関連して以下の国内及び国際特許を取得した。“視野計測方法、視野計測装置および視力検査視標,” 特許第 6230086 号(2017)。“VISUAL FIELD MEASURING METHOD, VISUAL FIELD MEASURING APPARATUS, AND OPTOTYPE,” US 10,687,700 B2 (2020)。“視野計測方法、視野計測装置和視力検査視標,” 第 3934938 号(2020)。“Visual field measuring method, visual field measuring appartus, and optotype,” EP3332692 (2020)。

阿萬 裕久

○データ解析に基づいたソフトウェア品質評価・予測に関する研究

4. 研究活動

ソフトウェアの品質はその開発に携わる技術者の経験や力量に依存しやすく、個体差が大きい。そのため個々の案件だけでなく、統計的なデータ解析の観点からソフトウェアの品質を評価・予測することが重要であり、1990年代後半からこのテーマに取り組んでいる。現在は特に、プログラマがプログラムの中に書き込むコメント文や変数に付ける名前に着目しており、このような個人差の出やすい特徴の品質への影響について研究を行っている。2020年度はこのテーマに関する成果発表を4件（論文誌2件、国際会議1件、査読付ワークショップ1件）行い、他大学の研究者からは良好な反応が得られている。

○効率的なソフトウェアレビュー及びテストの実践に関する研究

一般にソフトウェアの正しさは、その内容確認と動作確認によって保証される。前者はレビューと呼ばれ、多くの場合は複数の技術者がドキュメントやプログラムの内容を目視によって確認する作業となる。後者はテストと呼ばれ、実際にソフトウェアが正しく動作するかどうかを確認する作業となる。いずれも重要な作業であるが、工数（人手と時間）を多く必要とするところが現場では大きな問題となっている。この問題を解決すべく、レビュー及びテストの効率化について研究を行っている。2020年度にはこのテーマに関する成果発表を4件（いずれも国際会議）行い、高い評価を受けた。

裏 和宏

○人間の心的特性に着目した教育支援システムの開発に関する研究

既存の教育支援システムは「どの程度、学習者の状態や状況を把握できるか」という観点からは、学習者情報の取得・推定手法は個別的であり、人間の教師のように多様な視点で学習者を把握できているとは言えない。そこで、学習状態のモニタリングから取得可能な多様な学習者の情報（学習者の学習履歴や知識状態に加え、個人の性格、マインドセット、思考スタイル・学習観、気分、心的ストレスなど多面的な心的特性情報）に基づき学習支援する教育支援システムの開発を行う。

今年度は研究スタートの年であり、研究の導入となる情報調査や開発するシステムの設計・手法の検討を主に行った。特に、多面的に心的特性情報（学習履歴や知識状態を含む）を統合して教育制御に反映させる手法として、「バイアス付き多数決法」の基本アルゴリズムについて調査・検討を行った。

○コロナ禍における愛媛大学 Moodle の運用事例に関する研究

愛媛大学では、主に学内の教職員・学生が利用するための愛媛大学 Moodle を構築して運用している。例年、愛媛大学 Moodle では、愛媛大学の教職員が実施する授業・講習会・学生指導などの中で、希望があったものについてコース作成する運用を行っていたが、2020年度はコロナ禍により、急遽全ての授業のコース作成を行う方針となり、2019年度は1600程度だったコース数が、2020年度は6300程度まで増加することとなった。また、Moodle 利用やオンライン授業に不慣れな教員が、急に Moodle を用いてオンライン授業を作成しなくてはならない状況となった。このような状況の中で、愛媛大学 Moodle を安定運用させるため、アクセスの多くなる曜日や時間帯、各コースのデータ容量増加率や、データ容量の多いコースの特徴などを調査した。

曜日や時間帯別のアクセス数の調査結果からは、平日の曜日間でのアクセス数差や瞬間同時アクセス数

4. 研究活動

が少ないことから学内協力依頼の効果が出ていること、10時～17時頃のアクセスが多いことから遠隔授業でも昼から夕方まで学習するという生活リズムがキープされていること、19～21時にアクセスが下がり24時頃のアクセスが上がることから夕食や入浴後に就寝前に学習をしている模様であること、休日や祝日はアクセス数が下がるため休日・祝日はしっかり休んでいる学生が多いことなどが分かった。各コースのデータ容量増加率の調査結果からは、毎週約50GBのペースでデータ容量が増えることや、夏休み期間や冬休み期間の増加が収まること(休みの時はしっかり休んでいること)などが分かった。コース別のデータ容量数や特徴の調査結果からは、1番容量の多いコースは1コースで75GBものデータ容量があることや、データ容量が多いコースの特徴として、受講生が多くて毎回課題を出しているため学生の提出物が多いパターンと、教員が多数の動画・音声ファイルをアップロードしているパターンが確認できた。

そして、Moodle Moot Japan 2021にて、コロナ禍での愛媛大学 Moodle の運用事例として、各種調査結果や行った対策、起きたトラブル、意外だった注意点などを報告した。

5. 業務関連

(1) 沿革

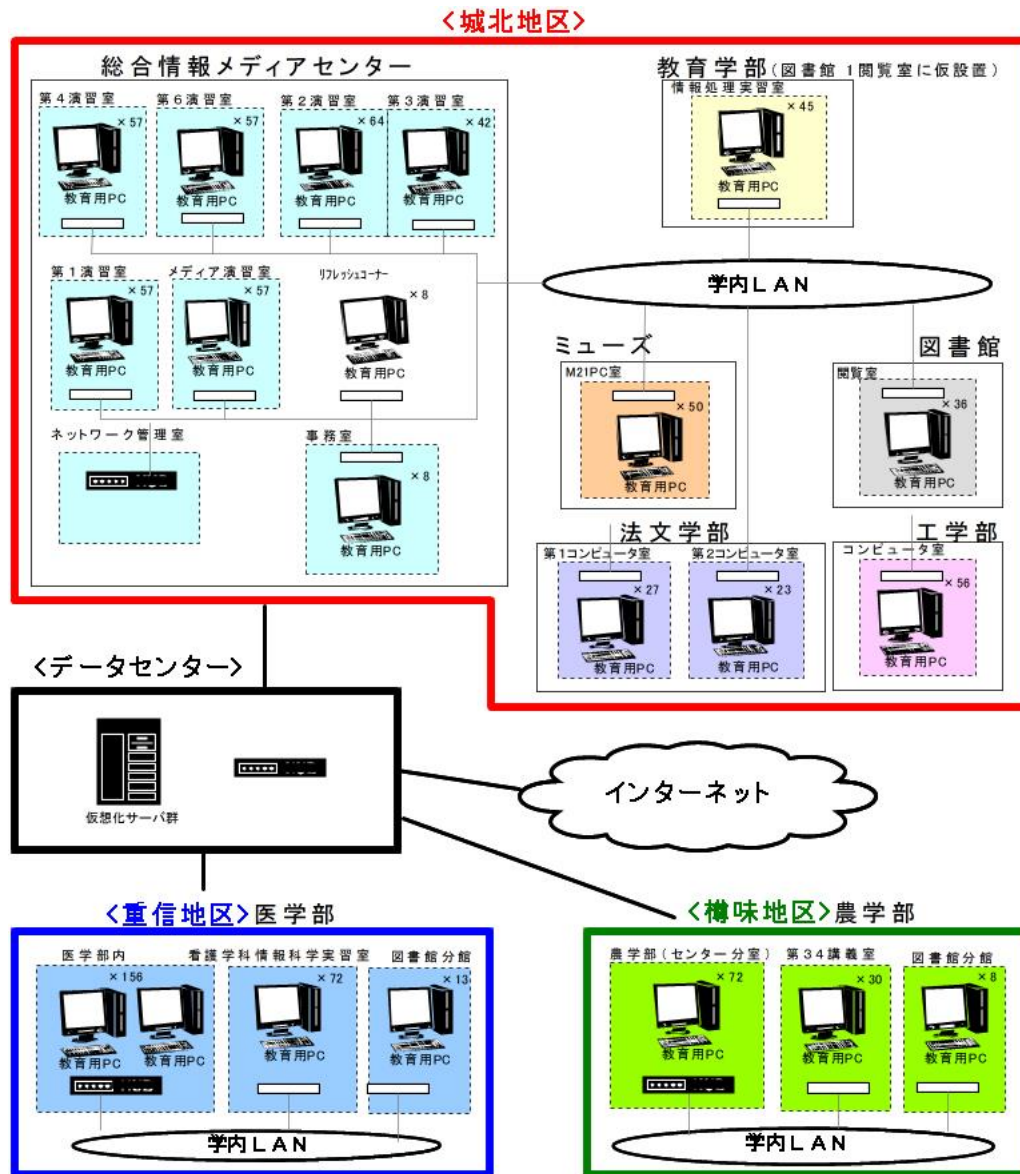
- 昭和 41 年 3 月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
- 昭和 50 年 2 月 愛媛大学計算機室に名称変更
- 昭和 50 年 3 月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
- 昭和 57 年 7 月 情報処理センター発足
- 昭和 57 年 11 月 情報処理センター建物完成（835.3 平方メートル）
- 昭和 58 年 2 月 FACOM M180IIAD システム（主記憶：12MB）導入
- 昭和 58 年 3 月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
- 昭和 60 年 3 月 DDX 加入
- 昭和 61 年 11 月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
- 昭和 62 年 4 月 FACOM M360AP システムに更新
- 平成 2 年 1 月 学術情報センターノード運用開始，DDX 解除
- 平成 2 年 10 月 JUNET 電子メールサービスの開始
- 平成 3 年 2 月 FACOM M770/6 システム（主記憶：64MB）導入
- 平成 4 年 2 月 JAIT に接続
- 平成 5 年 4 月 総合情報処理センター発足
- 平成 5 年 12 月 SINET ノード設置
- 平成 6 年 2 月 FACOM M1600/6 システム（主記憶:128MB）,CONVEX C3440CT システム導入
- 平成 6 年 3 月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
- 平成 9 年 11 月 ATMネットワークシステムの構築
- 平成 10 年 2 月 S-7/7000U モデル 500, FACOM M1600/6 システム導入
- 平成 12 年 2 月 総合情報処理センター建物完成（1871 平方メートル）
- 平成 13 年 3 月 学内ギガネットワークシステムの構築
- 平成 14 年 2 月 PRIMPOWER 600, パソコンシステム導入
- 平成 15 年 4 月 総合情報メディアセンター発足
- 平成 15 年 9 月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
- 平成 18 年 2 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 19 年 6 月 SINET3 本格運用
- 平成 22 年 3 月 構内光ケーブル張替
- 平成 22 年 10 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 23 年 3 月 SINET4 運用
- 平成 23 年 4 月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更
- 平成 26 年 9 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 28 年 2 月 SINET5 運用
- 平成 30 年 4 月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターの部門を改編
- 令和 元年 9 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入

5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

○システム構成概念

令和2年現在のシステム概念は次のとおりです。



5. 業務関連

○ソフトウェア一覧

令和2年度の各演習室で使用可能なソフトウェアは次のとおりです。

■教育PC(Windows)インストールソフトウェア一覧

No	ソフトウェア名	ソフトウェア説明	区分	申請 部署	ソフトウェア ライセンス	イメージパターン	
						Windows10	
						城北共通(農学部を含む)	医学部共通
1	Microsoft Office Professional 2019	ワープロソフト、表計算ソフト等	*		■	●	●
2	Microsoft Windows Visual Studio 2019	統合開発環境	*		■	●	●
3	7-Zip	ファイル圧縮ソフト		メ		●	●
4	Accelrys Draw	化学構造式作成ソフト		理		●	●
5	AdobeReaderDC	PDF閲覧用ソフト		メ		●	●
6	Arduino IDE	統合開発環境		工		●	●
7	Arial Unicode MSフォント	フォント		工		●	●
8	AutoCad2016	CADソフト		工	■	●	●
9	CBT	医学部試験実施ソフト		医	■	●	●
10	Chem Sketch	化学構造式描画ソフト		理		●	●
11	Chrome	Webブラウザ		メ		●	●
12	Cygwin	Unix環境		メ		●	●
13	Eclipse	統合開発環境		メ		●	●
14	FireFox	Webブラウザ		メ		●	●
15	Flash Player	ブラウザプラグイン		メ		●	●
16	Gaussian	計算化学用ソフト		理	■	●	●
17	GaussView	グラフィカル・インターフェース		理	■	●	●
18	GIMP	ペイントソフト		メ		●	●
19	GoogleEarth Pro	バーチャル地球儀ソフト		メ		●	●
20	GTEC試験アプリ	英語試験用アプリ		他		●	●
21	Inkscape	高機能ドローソフト		工		●	●
22	JDK	Java開発ツール		メ		●	●
23	Jw_cad	2次元汎用CADソフト		農		●	●
24	Lhaplus	ファイル圧縮ソフト		メ		●	●
25	MANDARA	地理情報分析支援システム		教		●	●
26	Primo PDF	PDF 作成/変換ソフト		メ		●	●
27	Python	プログラミング言語		医・理		●	●
28	QGIS	地理情報システムの閲覧、編集、分析		社		●	●
30	R Studio	統計解析言語R用の統合開発環境		法		●	●
31	RealPlayer	動画再生ソフト		メ		●	●
32	SAS Analytics pro	統計解析ソフト		医	■	●	●
33	SolidWorks	3次元CAD設計ソフト		工	■	●	●
34	SPSS	統計解析ソフト		医	■	●	●
35	Tera Term	ターミナルエミュレータ		工		●	●
36	VirtualBox	仮想化PC作成・実行ソフト		他		●	●
37	VODBOX	Internet Explorer用アドオン		医		●	●
38	一太郎ビューア	一太郎ビューアソフト		メ		●	●
39	スクリーンエディタ	テキストエディタ		メ		●	●
40	花子ビューア	花子ビューアソフト		メ		●	●
41	統計解析言語 R	統計解析ソフト		法		●	●

■教育PC(Linux)インストールソフトウェア一覧

No	ソフトウェア名	ソフトウェア説明	区分	申請 部署	ソフトウェア ライセンス	Linux
1	Adobe Reader	PDF閲覧用ソフト		メ		-
2	Convert	画像フォーマット変換		工		●
3	dvipdfmx	dviファイルのPDF変換		教		●
4	dvips	dviファイルのPostScript形式への変換		工		●
5	Eclipse	統合開発環境		メ		●
6	emacs	テキストエディタ		理		●
7	Firefox	Webブラウザ		メ		●
8	Flash Player Linux	ブラウザプラグイン		メ		●
9	Gcc	Cコンパイラ		工		●
10	gfortran	Fortranコンパイラ		理		●
11	ghostscript	ページ記述言語用のインタプリタ		教		●
12	ghostview	PostScriptファイルの変換(PDF・JPEG・PNG形式)		工		●
13	GIMP	ペイントソフト		工		●
14	GNOME	X Window System上で動作するデスクトップ環境		工		●
15	Gnuplot	グラフ描画ソフト		理		●
16	Java SDK	Java開発ツール		メ		●
17	Latex	組版処理用ソフト		教		●
18	libreoffice	ワープロソフト、表計算ソフト等		理・工		●
19	Tgif	描画ツール		工		●
20	thunderbird	メールクライアントソフト		工		●
21	xdvi	dviファイルビューア		教		●

—注意事項等—
 教育用PC(Windows)のSolidWorksについて、農学部を設置している端末へインストールしておりますが、運用の都合上、農学部の端末では、使用できない設定となっております。
 教育用PC(Linux)のAdobe Reader は、インストールパッケージの提供がなかったため、現在、ご利用いただけません。

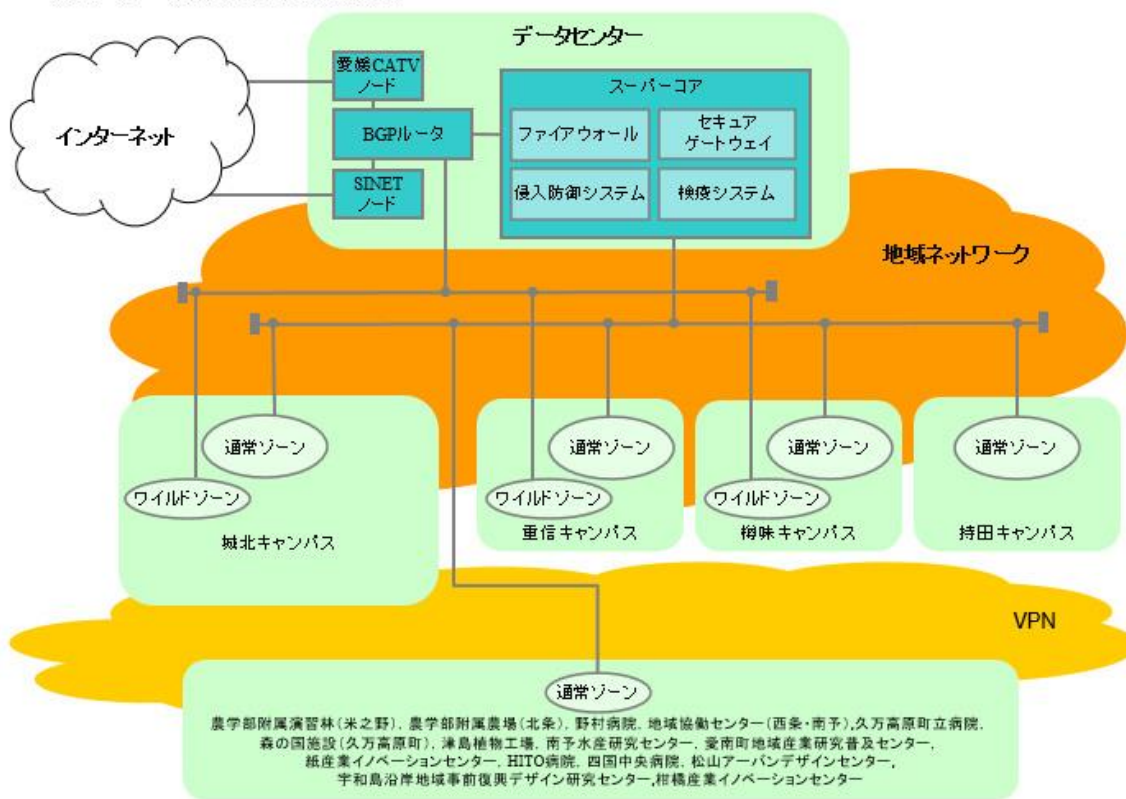
「区分」 *・・・仕様書にてインストールしているソフトウェア 空欄・・・申請に基づきインストールしているソフトウェア
 「申請部署」 法・・・法文学部 教・・・教育学部 社・・・社会共創学部 理・・・理学部 医・・・医学部 工・・・工学部 農・・・農学部 メ・・・メディアセンタ 他・・・その他(左記部署以外)
 「ライセンス」 ■・・・有償ライセンスソフトウェア 空欄・・・無償ライセンスソフトウェア

5. 業務関連

○ネットワーク概念

令和2年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

ネットワークシステム概念図



*城北・重信・梅味・持田キャンパス通常ゾーンでは無線ネットワークも提供

図 ネットワーク概念

(3) 事業実績

○セキュリティ関連

- ・情報セキュリティ教育及び確認テスト(6月)

教職員の情報セキュリティに関する意識向上のための情報セキュリティ教育及び確認テストを、e-ラーニングにより実施した。

- ・セキュリティ脆弱性検査実施(11月から随時)

学内の申請サーバについてセキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見された利用者には通知を行い、対策を依頼した。

○ネットワーク関連

- ・東京サテライトオフィスとの接続終了(11月)
- ・市立八幡浜総合病院との接続終了(1月)
- ・附属学校園用無線ネットワーク eunet-f 追加(3月)
- ・光ケーブル追加工事(3月)

5. 業務関連

○その他

- ・Microsoft 365 A3 for faculty 導入 (3月)

(4)利用状況

令和2年度のセンター利用状況は次のとおりです。

○情報基盤システム

センターメール及びLMS利用アカウントは、全学アカウントを持つ教職員及び学生以外の方が対象。

申請種別	登録数
センターメール	112 件
セキュアゲートウェイ	691 件
ホスティング (OS)	60 件
ホスティング (Web)	105 件
LMS利用アカウント	515 件
LMS利用 (コース登録)	6,390 件

新型コロナウイルス対策のためセンターメール・セキュアゲートウェイ・LMS利用アカウントの件数が増えている。

正規の授業はすべてLMSに登録することとなったため、コース登録も増加している。

○夜間開放・休日開放

今年度は、新型コロナ対策のため夜間開放及び休日開放は、中止となった。

○演習室開放

次のとおりインターネット環境の十分でない学生等を対象に、新型コロナ対策を十分に行い、学習スペースを開放した。一部のパソコンにはマイク・カメラを設置して、遠隔授業に対応した。

令和2年6月8日(月)～8月11日(火) 平日 8:30～17:50 利用者数 879人

令和2年10月1日(木)～12月25日(金) 平日 8:30～17:50 利用者数 2,540人

○メディアホール

新型コロナウイルス対策のため各種イベントが中止となった。

年月	利用件数	年月	利用件数
2020年 4月	1	2020年10月	7
2020年 5月	0	2020年11月	5
2020年 6月	2	2020年12月	5
2020年 7月	2	2021年 1月	0
2020年 8月	4	2021年 2月	1
2020年 9月	5	2021年 3月	1

5. 業務関連

○演習室

演習室使用予定表

2019年度・前学期
第1クォーター

曜日	演習室	時 限		1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限	6 時 限	7 時 限						
		8:30~10:00	10:20~11:50								12:40~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10	
月	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門Ⅰ (理学部) 中川 祐治	意思決定会計 (社会共創学部 3年) 岡本 直之	化学実験Ⅱ (理学部 3年) 垣内 拓大	統計学 (法・2年) 佐藤 晋秋	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	4/15									
	第4演習室 (4階)<56席>										環境学入門 (理, 工 2年) 古賀 理和	情報リテラシー入門Ⅰ (農学部) 野口 一人	化学入門 (教, 理, 医(畜)・農) 古賀 理和	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	
	第1演習室 (2階)<56席>															スポーツ健康情報処理演習 (社会共創学部 3年) 野口 一人
	メディア演習室 (2階北)<56席>															
火	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門Ⅰ (工学部) 小林 真也	情報リテラシー入門Ⅰ (工学部) 中畑 和之	情報リテラシー入門Ⅰ (教育) 裏 和宏	工学実践英語 (工 機械工学 2年) 有光 隆	基礎フランス語Ⅰ (法文) 柳 光子	工学実践英語 (工 機械工学 2年) 柴田 諭	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>								
	第4演習室 (4階)<56席>											生物学実験Ⅲ (理学部 3年) 藤藤 康	心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行	6/4		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	
	第1演習室 (2階)<56席>															環境建設工学実験Ⅱ (工・環境建設科 3年) 藤森 祥文
	メディア演習室 (2階北)<56席>															
水	第6演習室 (4階)<56席>	2019年度社会共創学部プレシメントテスト	情報地球科学演習 (理 地球科学科 3年) 亀山 真典	4/17	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	高大連携科目 廣垣 光紀	4/17,5/29	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>							
	第4演習室 (4階)<56席>											2019年度社会共創学部プレシメントテスト	4/17	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>										政策科学入門 (理・工 2年) 三上 了				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農	
	第1演習室 (2階)<56席>															製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農
	メディア演習室 (2階北)<56席>															
木	第6演習室 (4階)<56席>	生活科学入門 (法, 教, 社共, 農) 古賀 理和	意思決定会計 (社会共創学部 3年) 岡本 直之	情報リテラシー入門Ⅰ (医学部) 井門 俊	情報リテラシー入門Ⅰ (法文学部) 黒田 久泰	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>										
	第4演習室 (4階)<56席>										統計学 (法・2年) 佐藤 晋秋	スポーツ健康ICT活用演習 (社会共創学部 3年) 野口 一人				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>												設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史			
	第1演習室 (2階)<56席>													製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農		
	メディア演習室 (2階北)<56席>															
金	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門Ⅰ (社会共創学部) 二宮 崇	情報リテラシー入門Ⅰ (工学部) 一色 正晴	5/10	設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史	情報リテラシー入門Ⅰ (法・夜間主) 佐々木 隆志	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>									
	第4演習室 (4階)<56席>										伝熱工学特論 (理工学研究科 博士前期課程) 向笠 忍					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>											プログラミング演習Ⅰ (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明				
	第1演習室 (2階)<56席>												プログラミング演習Ⅰ (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明			
	メディア演習室 (2階北)<56席>															

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用してなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	演習室	時 限					
		13:30~15:00 1 時 限	15:10~16:40 2 時 限	16:50~18:20 3 時 限			
土	第6演習室 (4階)<55席>	プログラミング演習Ⅰ (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明	6/1, 8 (8:00~16:30)	4/13, 20, 27, 5/11, 18, 25 (8:00~16:30)			
	第4演習室 (4階)<56席>				休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>	
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>
	メディア演習室 (2階北)<56席>						

5. 業務関連

演習室使用予定表

2019年度・前学期
第2クォーター

曜日	時限	8:30~10:00		10:20~11:50		12:40~14:10		14:30~16:00		16:20~17:50		18:00~19:30		19:40~21:10	
		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (理学部) 大塚 寛								社会統計学 (法・2年) 佐藤 智秋					
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (理学部)		環境学入門 (理,工 2年)				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	中川 祐治		古賀 理和		情報リテラシー入門II (農学部)		化学入門 (法,社共,理,医(看))							
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門II (理学部) 平田 浩一				野口 一人		古賀 理和		夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>			スポーツ健康情報処理演習 (社会共創学部 3年) 野口 一人		情報リテラシー入門II (農学部) 堤 三佳		製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農							
	第6演習室 (4階)<56席>	新入生セミナーA (社会共創学部 1年) 野口 一人		7/30		情報リテラシー入門II (工学部)		情報リテラシー入門II (教育) 河村 泰之		工学実践英語 (工 機械工学 2年) 有光 隆					
第4演習室 (4階)<56席>							情報リテラシー入門II (教育)		基礎フランス語2 (法文) 柳 光子						
第2・3演習室 (3階)<63・42席>	橋梁工学演習 (工・環境建設工学 3年) 中畑 和之				小林 真也		裏 和宏		工学実践英語 (工 機械工学 2年) 柴田 論						
第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>						
メディア演習室 (2階北)<56席>					情報リテラシー入門II (工学部) 稲元 勉		心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行		教材研究プロフェッショナル講座(学校教員向け講習会)		7/30				
火	第6演習室 (4階)<56席>	6/12		社会共創学部 学修サポートフォーリオ操作説明 会		7/31		環境建設工学実験II (工・環境建設科 3年) 藤森 祥文							
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門I (工学部) 一色 正晴		情報地球科学演習 (理 地球科学科 3年) 亀山 真典				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	政策科学入門 (理・工 2年) 三上 了		社会共創学部 学修サポートフォーリオ操作説明 会		7/31				高大連携科目 廣垣 光紀		6/26,7/3,10,17,24,31			
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>									製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農					
	第6演習室 (4階)<56席>					情報リテラシー入門II (医学部) 岡本 好弘		情報リテラシー入門II (法文学部)		社会統計学 (法・2年) 佐藤 智秋					
第4演習室 (4階)<56席>	生活科学入門 (法,教,社共,農)				情報リテラシー入門II (医学部)		黒田 久泰								
第2・3演習室 (3階)<63・42席>	古賀 理和				井門 俊										
第1演習室 (2階)<56席>							情報リテラシー入門II (法文学部) 谷 弘幸		夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>						
メディア演習室 (2階北)<56席>					スポーツ健康ICT活用演習 (社会共創学部 3年) 野口 一人		情報リテラシー入門II (法文学部) 木下 浩二		情報リテラシー入門I (農学部) 野口 一人		6/13				
水	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門II (社会共創学部) 遠藤 慶一		情報リテラシー入門II (工学部)		設計製図 (工・機械工学 3年)							
	第4演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門II (社会共創学部)		一色 正晴		松下 正史				情報リテラシー入門II (法・夜間主) 二神 透			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			二宮 崇								情報リテラシー入門II (法・夜間主) 佐々木 隆志			
	第1演習室 (2階)<56席>					情報リテラシー入門II (工学部) 甲斐 博				夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>					情報リテラシー入門II (工学部) 阿萬 裕久		情報リテラシー入門II (工学部) 稲元 勉		6/28					
	第6演習室 (4階)<55席>			プログラミング演習II (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明						6/15, 22, 29					
第4演習室 (4階)<56席>															
第2・3演習室 (3階)<63・42席>					生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和										
第1演習室 (2階)<56席>			休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>												
メディア演習室 (2階北)<56席>					生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和										

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	時限	13:30~15:00		15:10~16:40		16:50~18:20	
		1時限		2時限		3時限	
土	第6演習室 (4階)<55席>	プログラミング演習II (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明				6/15, 22, 29	
	第4演習室 (4階)<56席>						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和			
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>			生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和			

5. 業務関連

演習室使用予定表

2019年度・後学期
第3クォーター

曜日	時限	演習室						
		8:30~10:00 1時限	10:20~11:50 2時限	12:40~14:10 3時限	14:30~16:00 4時限	16:20~17:50 5時限	18:00~19:30 6時限	19:40~21:10 7時限
月	第6演習室 (4階)<56席>							
	第4演習室 (4階)<56席>			CAE基礎および演習 (社会共創学部 3年) 高橋 学	生活科学入門 (理, 医, 農 1年) 古賀 理和			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	CAD実習 (工学部 機械 2年) 朱 轟		コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛				
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>							
火	第6演習室 (4階)<56席>		12/3	化学実験V (理学部理学科化学コース・3年) 垣内 拓大		データ分析 (教育学部) 河村 泰之		
	第4演習室 (4階)<56席>				心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行	基礎フランス語3 (法文) 柳 光子		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				SPH性格検査受験会	11/26		
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			情報基盤システム特論 (工 情報工学コースMI) 阿萬 裕久				
	第6演習室 (4階)<56席>							
水	第6演習室 (4階)<56席>			GPSアカデミック受検 (社 産業マネジメント学科) 崔 英靖	11/27			
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	11月から使用	コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛	コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛	設計製図 (工学部 機械工学科) 堤 三佳			
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>							
木	第6演習室 (4階)<56席>							
	第4演習室 (4階)<56席>		CAE基礎および演習 (社会共創学部 3年) 高橋 学	応用化学実験II (工学部 2年) 林 美		10/31		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二	プログラミング言語 (工学部工学科 2年) 柴田 論	C言語入門 (工学部工学科 1年) 柴田 論		C言語入門 (工学部工学科 1年) 柴田 論	11/28	
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>							
金	第6演習室 (4階)<56席>							
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	制御工学II (工・電気電子 3年) 都築 伸二	制御工学II (工・電気電子 3年) 都築 伸二	11/22	制御工学II (工・電気電子 3年) 都築 伸二			
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>							

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	時限	演習室		
		13:30~15:00 1時限	15:10~16:40 2時限	16:50~18:20 3時限
土	第6演習室 (4階)<55席>	教員免許状更新講習		
	第4演習室 (4階)<56席>			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			
	第1演習室 (2階)<56席>	休日開放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			法情報論 (法文 2年~4年) 上山 友一

5. 業務関連

演習室使用予定表

2019年度・後学期
第4クォーター

曜日	演習室	8:30~10:00 1 時限		10:20~11:50 2 時限		12:40~14:10 3 時限		14:30~16:00 4 時限		16:20~17:50 5 時限		18:00~19:30 6 時限		19:40~21:10 7 時限	
		月	第6演習室 (4階)<56席>			地理情報システム学 (社会共創学部 3年) 渡邊 敬造		地球物理学実験 (理学部地球科学科・2年) 出倉 春彦				1/20~2/10			
	第4演習室 (4階)<56席>			1/27,2/3,10		CAE基礎および演習 (社会共創学部 3年) 高橋 学		生活科学入門 (理, 医, 農 1年) 古賀 理和							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			CAD実習 (工学部 機械 2年) 朱 霞		英語統一試験 GTEC CTE									
	第1演習室 (2階)<56席>							1/20							
	メディア演習室 (2階北)<56席>			英語統一試験 GTEC CTE				1/20							
火	第6演習室 (4階)<56席>		1/21		1/21		英語統一試験 GTEC CTE								
	第4演習室 (4階)<56席>				英語統一試験 GTEC CTE			心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行		基礎フランス語4 (法文) 柳 光子					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>							政策情報論 (法文学部 2年) 三上 了				英語統一試験 GTEC CTE	1/21		
	第1演習室 (2階)<56席>		1/21				1/21								
	メディア演習室 (2階北)<56席>			英語統一試験 GTEC CTE		情報基盤システム特論 (工 情報工学コース M1) 阿萬 裕久		英語統一試験 GTEC CTE					英語統一試験 GTEC CTE	1/21	
水	第6演習室 (4階)<56席>			地理情報システム学 (社会共創学部 3年) 渡邊 敬造											
	第4演習室 (4階)<56席>					構造化学II (理学部 2年) 長岡 伸一							2/12		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		1/22, 1/29, 2/5, 2/12	情報活用実践 (教育 1年) 河村 泰之		学修ポートフォリオの作成作業		設計製図 (工学部 機械工学科) 堤 三佳							
	第1演習室 (2階)<56席>							2/12							
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
木	第6演習室 (4階)<56席>		1/23	地理情報システム学 (社会共創学部 3年) 渡邊 敬造		1/30, 2/6, 13		松山東高校GL事業					1/16, 30, 2/13, 20		
	第4演習室 (4階)<56席>			英語統一試験 GTEC CTE		CAE基礎および演習 (社会共創学部 3年) 高橋 学		英語統一試験 GTEC CTE					1/23		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二		プログラミング言語 (工学部工学科 2年) 柴田 諭		C言語入門 (工学部工学科 1年) 柴田 諭		英語統一試験 GTEC CTE			1/23		
	第1演習室 (2階)<56席>					英語統一試験 GTEC CTE									
	メディア演習室 (2階北)<56席>					英語統一試験 GTEC CTE							1/23		
金	第6演習室 (4階)<56席>														
	第4演習室 (4階)<56席>					構造化学II (理学部 2年) 長岡 伸一							2/7, 14		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					英語統一試験 GTEC CTE		政策情報論 (法文学部 2年) 三上 了							
	第1演習室 (2階)<56席>		1/24		1/24		1/24								
	メディア演習室 (2階北)<56席>					英語統一試験 GTEC CTE									

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	演習室	13:30~15:00 1 時限		15:10~16:40 2 時限		16:50~18:20 3 時限	
		土	第6演習室 (4階)<56席>				
	第4演習室 (4階)<56席>						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>						
	第1演習室 (2階)<56席>			休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) < 夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止 >			
	メディア演習室 (2階北)<56席>						法情報論 (法文 2年~4年) 上山 友一

5. 業務関連

(5) センターイベント

○情報セキュリティセミナー

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：令和2年9月18日（金）14：00～16：00
場 所：オンライン
対 象：教職員

(6) 各種委員会

【教員コア会議】

- ・令和2年7月1日（水） 令和2年度第1回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・令和2年10月7日（水） 令和2年度第2回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・令和3年1月18日（月） 令和2年度第3回総合情報メディアセンター教員コア会議

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

平成30年4月1日
規則第 22 号

愛媛大学総合情報メディアセンター規則（平成23年規則第24号）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 センターは、学内共同利用の施設として、愛媛大学（以下「本学」という。）の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

（部門）

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 情報基盤・セキュリティ部門
- (2) ICT（Information and Communication Technology をいう。以下同じ。）利用教育・情報サービス推進部門

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

（センター長）

第5条 センター長は、本学の専任の教授のうちから、愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第6条 専任教員は、学術研究会議が推薦し、国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て、学長が選考する。

（兼任教員）

第7条 兼任教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

5. 業務関連

第8条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。
- 3 兼任教員は、センターの専任教員とともにセンターの業務を遂行する。
- 4 センター職員は、センターの業務に従事する。

(学術研究会議)

第9条 センターの業務に関する重要な事項は、学術研究会議において審議する。

(運営委員会)

第10条 センターの運営に関する事項を審議するため、愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(ICT利用教育推進室)

第11条 センターに、情報通信技術を利用した教育を推進するため、ICT利用教育推進室を置く。

- 2 ICT利用教育推進室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第12条 センターの業務に関する事項の企画立案等を行うため、必要に応じて部会を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

- 2 分室に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部情報システム課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室内規（平成25年4月1日制定）は、廃止する。

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター利用規程

平成16年4月1日
規則 193号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第13条の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター(以下「センター」という。)が管理する計算機システム(以下「システム」という。)及びキャンパス情報ネットワーク(以下「ネットワーク」という。)の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者の資格)

第2条 システム及びネットワークを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 愛媛大学の職員、学生及び附属学校生徒
- (2) その他センター長が適当と認めた者

(システム利用の手続)

第3条 システムを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 前項の有効期限は、当該年度限りとする。

(ネットワーク利用の手続)

第4条 ネットワークを利用しようとする者は、所定の手続により、申請するものとする。

2 前項の有効期限は、ネットワーク利用が認められた者の資格が失われるまでとする。

(ポリシー等の遵守)

第5条 システム及びネットワークを利用する者は、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本方針、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本規則、国立大学法人愛媛大学情報システム運用・管理規程及び国立大学法人愛媛大学情報格付基準を遵守しなければならない。

(システム利用経費の負担)

第6条 利用に係る経費を負担する者(以下「支払責任者」という。)は、システム利用が認められた者の利用に係る経費を負担しなければならない。

2 前項の規定により支払責任者が負担すべき経費の額及び負担方法は、センター運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(ネットワーク利用経費の負担)

第7条 ネットワーク利用が認められた者の負担すべき経費の額及び負担方法は、センター運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(利用時間の制限等)

第8条 センター長は、システム及びネットワークの利用に関し、利用時間帯を制限し、又は指定することができる。

(機器の移動等の禁止)

第9条 センターの機器等に関し、次の各号に掲げる事項は禁止する。ただし、センター

5. 業務関連

長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- (1) 機器の移動又は変更
- (2) ソフトウェアの変更，追加
(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、センターに関する諸規則に違反する者があるとき、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせるおそれのあるときは、その者の利用の承認を取消し又は利用を停止することができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター運営委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年9月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター分室規程

〔平成16年4月1日〕
規則 192号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター分室(以下「分室」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(分室長)

第2条 分室に分室長を置く。

2 分室長は、当該分室が所在する学部の愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会委員(以下「運営委員会委員」という。)をもって充てる。

3 分室長の任期は、運営委員会委員として任命された期間とし、再任を妨げない。

4 分室長は、愛媛大学総合情報メディアセンター長の指示に従い、当該分室の業務を処理する。

(委員会)

第3条 分室の円滑な運営を図るため、分室に分室の運営に関する委員会を置くことができる。

(雑則)

第4条 この規程に定めるもののほか、分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

案内図



〒790-8577 松山市文京町3

3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan

TEL 089-927-8803・FAX 089-927-8805

<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>

2021.7発行